



第6回 IUPAC の未来：変革と科学への再焦点

IUPACは、今、重要な時期を迎えていく。私が副会長、そして続く2028～2029年期の会長としての任に就く準備を進めている中、IUPACは過去数十年で最も重要な組織的見直しに着手している。

第一にIUPACの新しい組織構造への移行を巧みに主導すること、そして第二にその新構造を活用して「IUPACの科学」に再び焦点を当て、その活力を取り戻すことである。

私は、副会長としてIUPACサイエンス・ボード(Science Board)の議長も兼務することになるので、今後数年間にわたる2つの最優先事項の中心的役割を担うことになる。

变革の必要性

IUPACは、世界の化学コミュニティに貢献し、科学のための共通言語を提供し、不可欠な技術標準を開発してきた長い歴史を持っている。しかし、世界も科学の実践も劇的に変化している。現代の要求に応えるためには、私たち自身も進化しなければならない。

この2年期において、サイエンス・ボードと多くのボランティアはいくつかの課題を認識してきた。具体的には、RecommendationやTechnical Reportといった一部の伝統的なアウトプットの減少、既存のディビジョン間の学際的連携の限界、デジタル標準化への対応の遅

れ、そして産業界のパートナーとの連携が望まれるレベルに達していないことなどが挙げられる。さらに、ほかの多くの国際機関と同様に、私たちは財源とボランティアの時間という制約にも直面している。

これらの課題はIUPACに固有のものではないが、私たちの対応は独自のものでなければならない。より合理化され、柔軟で、未来志向の組織を創り上げ、アウトプットの質を維持しつつ、より少なく、しかし、よりインパクトの高いプロジェクトに集中することを目指している。

新たな組織構造：「ディビジョン」と「テーマ」

最善の道筋を見いだすため、IUPAC執行部は、ここ数ヵ月間に開催された複数のフォーラムを含め、各国の加盟組織(National Adhering Organizations; NAOs)との広範な協議を続けてきた。これらの議論ではいくつかの組織構造案が検討され、『中核となる「ディビジョン(Divisions)」を維持しつつ、「テーマ(Themes)」という柔軟な新しい概念を導入する』という下記に示す案でコンセンサスが形成されつつある。この案は、過去との急進的な決別ではなく、熟慮された進化である。

1. ディビジョン：

再編・統合されたディビジョンは、引き続き化学の基幹分野を代表する。その不可欠な役割は、「カラーブック」(命名法規集)を維持・更新し、新しい化学物質の命名法を定義し、産業界と学界が等しく依存する厳選されたデータや技術標準を提供し続けることである。これはIUPACの国際的貢献の礎である。

2. テーマ（主題領域）：

「テーマ」は、機敏性、学際性、即応性を持つように設計される。これらは、サステナビリティ、デジタル化学、グローバルヘルスなど、優先度の高い応用的課題や差し迫った地球規模の課題を取り上げる。恒久的なディビジョンとは異なり、テーマには設定された活動期間があり、カウンシル(Council)によって更新が承認されない限り、自動的に終了(サンセット)する。このモデルにより、IUPACはリソースを新しい新興科学分野へ迅速に向けることが可能になる。

この二重構造は連携とインパクトを促進するために設計されている。テーマはプロジェクト予算の大部分を受け取ることが想定されており、新しいボランティア、若手化学者(IYCN)、そして何よりも産業界のパートナーとの連携を深めるための主要な手段となると期待される。これらのテーマ領域は、産業界の事業部門や研究開発目標と直接的に一致するこ

とを目指す。

なお、組織構造の変更は、まだ何も確定しておらず、変更にはカウンシルによる承認が必要となる。

今後の道のり: 2026~2029年

これから数年間は極めて重要である。現在は、NAOとの協議を終え、そのフィードバックを分析している。次の主要なステップは、改訂された規約・細則の提案であり、これは2026年半ばに開催される特別カウンシル会議での投票に付される予定である。

この新しい組織構造が承認された場合、副会長としての任期である2026~2027年期は、新体制への準備の期間となる。これは、既存のプロジェクトを新しい枠組みに振り分け、最初の「テーマ」を設定し、何千人のボランティアが円滑に移行できるよう万全を期すプロセスとなるであろう。

そして、新体制の公式なキックオフは、会長任期が始まる2028年1月に予定されている。したがって、私の役割は、副会長としてこの重要な計画段階を主導し、会長として改革された新生IUPACの始動と、その最初の2年期を牽引することにある。

IUPACの科学への再焦点

この組織再編は、単なる管理上の変更ではない。その唯一の目的は、より良く、よりインパクトがあり、現代社会の要請により適合した科学を可能にすることである。サイエンス・ボード議長として、この目的を確実に達成することが私の第二の優先事項である。

新しい組織構造は、サイエンス・ボードが優先順位に従って資金を配分し、戦略的にリソースを投入するための強力なツールとなる。ディビジョンにおける不可欠な基幹研究を維持しつつ、テーマを

通じて新興分野へ投資することができるようになる。これは、IUPACの科学的ビジョン、すなわち努力を集中し、リソースを構築し、産業界やほかの国際機関とのパートナーシップを強化することの実現につながる。

私は、IUPACの未来が明るいものであると確信している。ボランティアの皆様の取り組みと、会員の皆様との十分な協議によって推進されるこの変革は、IUPACが今後数十年にわたり化学分野における卓越したグローバルリーダーであり続けることを確実にするものとしなければならない。本活動を支えて下さっているIUPAC賛助会員委員会の皆様、そしてすべての関係者とともに、この移行期において、日本化学会の皆様と協働できることを楽しみにしている。

〔IUPAC副会長（2026~2027年度）
Christine K. Luscombe〕

© 2026 The Chemical Society of Japan